

開物類纂

76  
269

館書圖京東	
函二二	門新
架四	部五
號	類一

041705-000-2

特30-801

開物類纂 第1号

開拓使

M12

BDI-0215



特

8



特30  
801

明治十二年十二月刊行

# 開物類纂

第壹號

開拓使



開物類纂

緒言

北海道ハ山ヲ負ヒ海ヲ環ラシ物産ノ夥シキ固ヨリ言フナ俟  
タス本使建置以來撫循勸誘專ラ殖産ヲ以テ先務ト爲シ遠ク  
海外ヨリ農工諸科ノ學師數名ヲ聘シ又動植ノ良種及ヒ器械  
ヲ購ヒ耕種牧畜採礦製造等凡開産ノ事業隨テ傳習之ヲ現術  
ニ施シ全道駸々乎トシテ將ニ殷富ノ基ヲ成サントス爰ニ各  
事項ノ既ニ結果スルモノ或ハ試驗中或ハ前途施行ス可キ報  
文衆說等公文中ニ散見スルモノヲ抄録シ名ケテ開物類纂ト  
曰フ今ヤ逐次鐫刻シ勸業ノ景況ヲ示サントス冀クハ全道ノ  
衆庶一層奮勵シ土地益闢ケ物産益殖シ將來ノ富饒果テ本使  
ノ望ニ負カサランヲ



凡例

- 一 編中事項年月先後ノ順序ヲ問ハス得ルニ隨テ採録ス
- 一 矯龍氏全報農覺年報ノ類ノ如キ已ニ印刷ニ属スルモノハ畧ス
- 一 是編行文ノ雅俗事目ノ繁碎ニ關セス都テ原文ヲ存スルハ其實ヲ失ハサルヲ要スルナリ

目次

- 一 東京麻布第三號官園池ニ於テ北海道鱒卵孵化ノ顛末
- 附 鱒卵護送ノ心得
- 一 魯國駐劄榎本公使來書臘虎ノ說
- 附 紫猫黒狐ノ說
- 一 榎本公使再書臘虎ノ說
- 一 チヤーレス、ランマン氏臘虎ノ說
- 一 養蠶ノ顛末
- 一 玉蜀黍ノ効用
- 一 鱒魚酸漬製法
- 一 鯉魚各種製法
- 一 漁網製造ノ報文



開物類纂第壹號

○東京麻布第三號官園池ニ於テ北海道鱒卵孵化ノ顛末

明治十一年九月十八日石狩國札幌郡琴似川ニ於テ鱒魚雌二十尾雄十  
九尾ヲ捕獲シ先ツ手ヲ以テ雌魚ノ卵ヲ絞リ出シ適宜ノ器ニ納レ次ニ  
雄魚ノ精液ト俗ニ白子ヲ絞リ卵ノ上面ニ迷注シ充分ニ交感セシメ柔軟  
ノ羽帶ヲ以テ徐々卵ヲ攪拌シ陽液ノ感シテ卵色第一圖參視ス全ク澄  
明ニ至ルヲ俟テ綿布ニ包ミ運送匣ニ納ル匣ハ木板ヲ以テ製シ上面ニ  
數小孔ヲ穿テ匣底ニハ氷苔ヲ藉キ冰塊ヲ以テ匣上ニ置キ氷塊自然ニ  
融解シテ匣中ノ卵子ニ滴下スル如クナラシム翌十九日之ヲ札幌本廳  
ノ孵化場ニ運送シタリ

同日午後二時ニ借樂園中試驗場ノ孵化器第二圖ニ移セリ孵化器ハ木板  
ヲ以テ製シ長サ壹尺八寸幅壹尺深サ六寸其内面ヲ焚テ焦黒ナラシメ  
匣ノ前後ニハ縱壹寸余横六分余ノ口ヲ開キ匣底ニハ一イソナ二十五  
ノ細目アル銅網ヲ張り假漆ヲ以テ之ヲ塗り其下ニ綿布ヲ貼ス匣ノ前



面ヲ氷ノ上流ニ向テ笥下ニ駢列シ常ニ新氷ヲ流通セシメ時々點檢シテ羽箒ヲ以テ卵面ヲ輕拂シ氷垢ノ附着スルヲ防ク此ノ如クスル二十日ヲ經テ十月十三日ニ至リ五六顆ノ卵子ニ黑點ノ眼睛ヲ顯スヲ見ル十九日ニ至リ一點或ハ兩點ノ眼睛第三圖ヲ生スルモノ甚々多シ初メ卵ヲ孵化器ニ移ス其色依然トシテ變狀ナシ日ヲ經ルニ從ヒ卵ニ白點第四圖ヲ生シ腐敗スルモノ陸續トシテ絶ヘス一々之ヲ除キ去リ九月十九日ヨリ十月廿七日ニ至ルノ間死卵ヲ算スルニ二十尾ヨリ絞リ出セル卵數ヲ三万九千三百八十顆一尾平均千九百トナシ腐敗スルモノ三万三千四百餘顆ノ多キヲ致シ現存スル所ノ卵子ハ僅ニ五千九百餘顆ニ過キサルニ至ル斯ク腐敗減少ヲ致セシハ蓋シ雄魚ノ精液ヲ卵中ニ交感セシムルノ際精力ノ稀薄ナルカ又孵化場ニ氷ヲ引ク笥ノ上下銅網ヲ張り氷蟲第五圖ノ際精力ノ稀薄ナルカ又孵化場ニ氷ヲ引ク笥ノ上因ルカ且ツ虫害ヲ防クガ爲ニ張リタル綿布ハ幾分カ氷ノ流通ヲ障礙遲緩ス故ニ其生育ノ力ヲ失ヒタルモ亦々少ナカラズ因テ是等ノ失敗

ヲ救護セシガ爲メ十月十二日ニ至リ匣底ノ綿布ヲ去リ之レニ代フルニ馬尾ヲ以テ織成シタル織細ノ網ヲ貼付セシニ氷ノ流通其度ニ適シ氷蟲亦々侵入セズ卵子蘇生ノ觀ヲナセリ且ツ氷蟲ノ侵入ヲ防カンカ爲メ孵化場ノ上流ニ一ノ唧筒ヲ裝置シ新氷ヲ自由ニ流通セシメント即今着手セリ

同年九月二十四日同郡漁川ニ於テ捕獲スル所ノ鱒魚雌四十九尾雄三十七尾ヲ前法ニ由テ交感セシメ翌二十五日札幌ノ孵化場ニ運送シ分テ四十匣トシ十月十三日ニ至リ蟲害甚シキヲ以テ馬尾ノ網ヲ施セル匣ニ每匣大約四百顆ノ卵ヲ移ス十六日ニ至リ眼睛ヲ生スルモノ二三顆ヲ見ル二十一日ニ至リ黑點ノ眼形ヲ現セシモノ拾四五顆ニ及ヘリ方今ニ在テハ皆眼睛ヲ生スルモノナラサルハナシ其死卵ハ前ニ同シク之ヲ概算スルニ原數十萬九千餘顆ニシテ現存スルモノ約千七千五百顆ニ過ギザルナリ

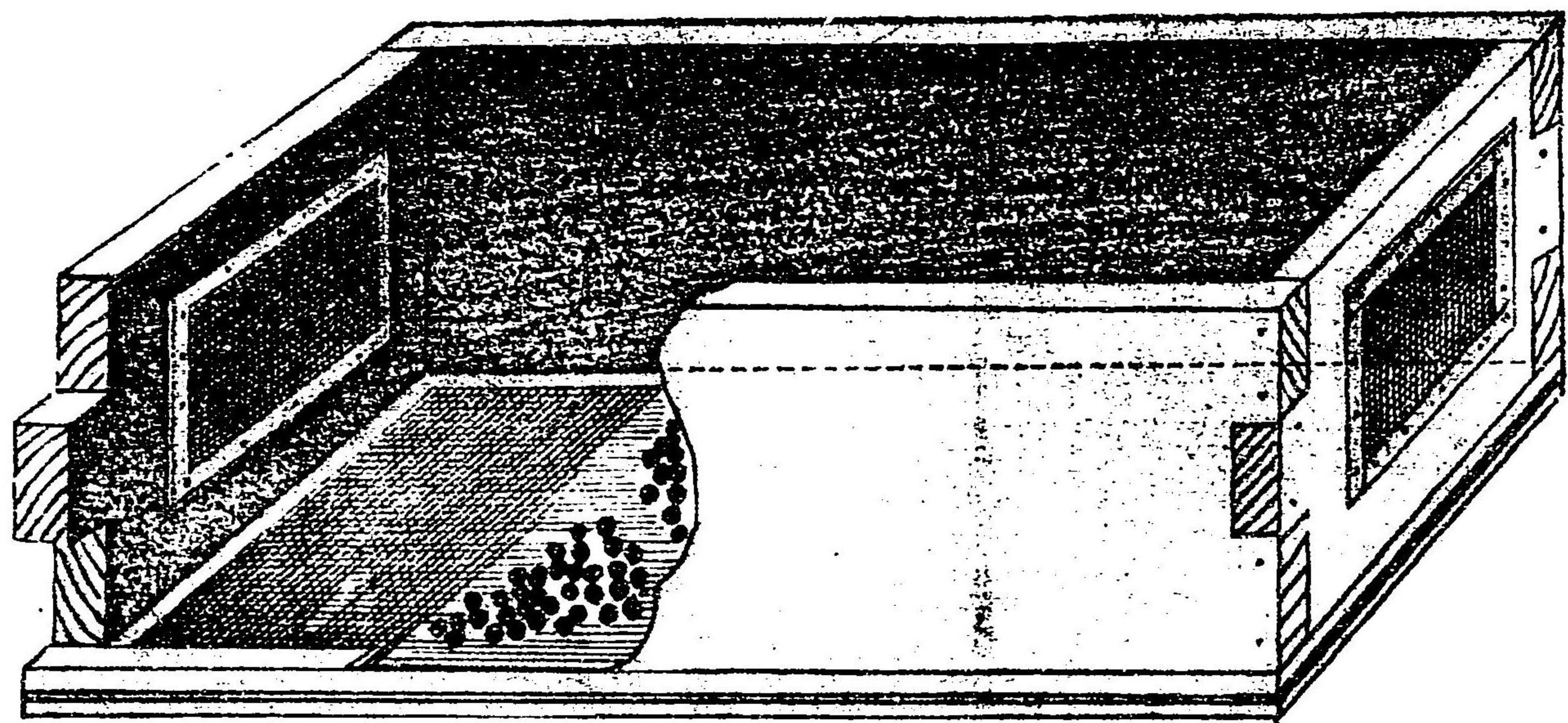
琴似漁ノ二川ニテ獲ル所ノ卵子ヲ區別シ琴似川ハ四千三百五十顆 漁川ハ六百五十顆



テ五千顆ヲ東京ニ運送ス其法勸農局ニテ經驗スル所ノ法ヲ折衷シ先  
 ツ卵ヲ納ル、圖第六厚サ五分ノ椶板ニテ内法長サ一尺四寸巾八寸深  
 サ四寸ノモノ三個ヲ造リ其内面ヲ燒焦シ每匣ノ底十一ノ小孔ヲ三行  
 ニ穿テ空氣及ヒ氷塊融解ノ水ヲ出入セシメ三個ヲ重テ壹組トナシ  
 又木板ヲ以テ一大外匣ヲ造リ其四面及ヒ底ニ小孔ヲ穿テ空氣及ヒ排  
 水ヲシテ自在ニ流通セシム  
 卵ヲ匣裏ニ排列スルニハ水苔ヲ採リ熱湯ヲ以テ之ヲ洗ヒ苔中ニ附着  
 スル至小ノ蟲類ヲ去リ之ヲ匣底ニ藉ク一厚サ一寸餘又タ柔カナル麻  
 布ヲ以テ苔上ニ敷キ卵ヲ其上ニ並列シ又苔ト布ト夫敷キ卵ヲ並フル  
 下層ノ如クシ層々相重テ每匣四寸ノ深サニ卵子ヲ三層ニ並列シ最上  
 ノ匣ニハ氷塊ヲ置キ自然ニ融解シテ匣中ニ滴下セシム匣ト外匣トノ  
 間周圍二寸ノ空隙ヲ取リ其空所ニハ落葉ヲ填メ外氣ノ感セザル如ク  
 シ小樽港ニ運搬シ涼船中尤モ清涼ノ所ニ安置シ護送者ヲシテ注意セ  
 シム

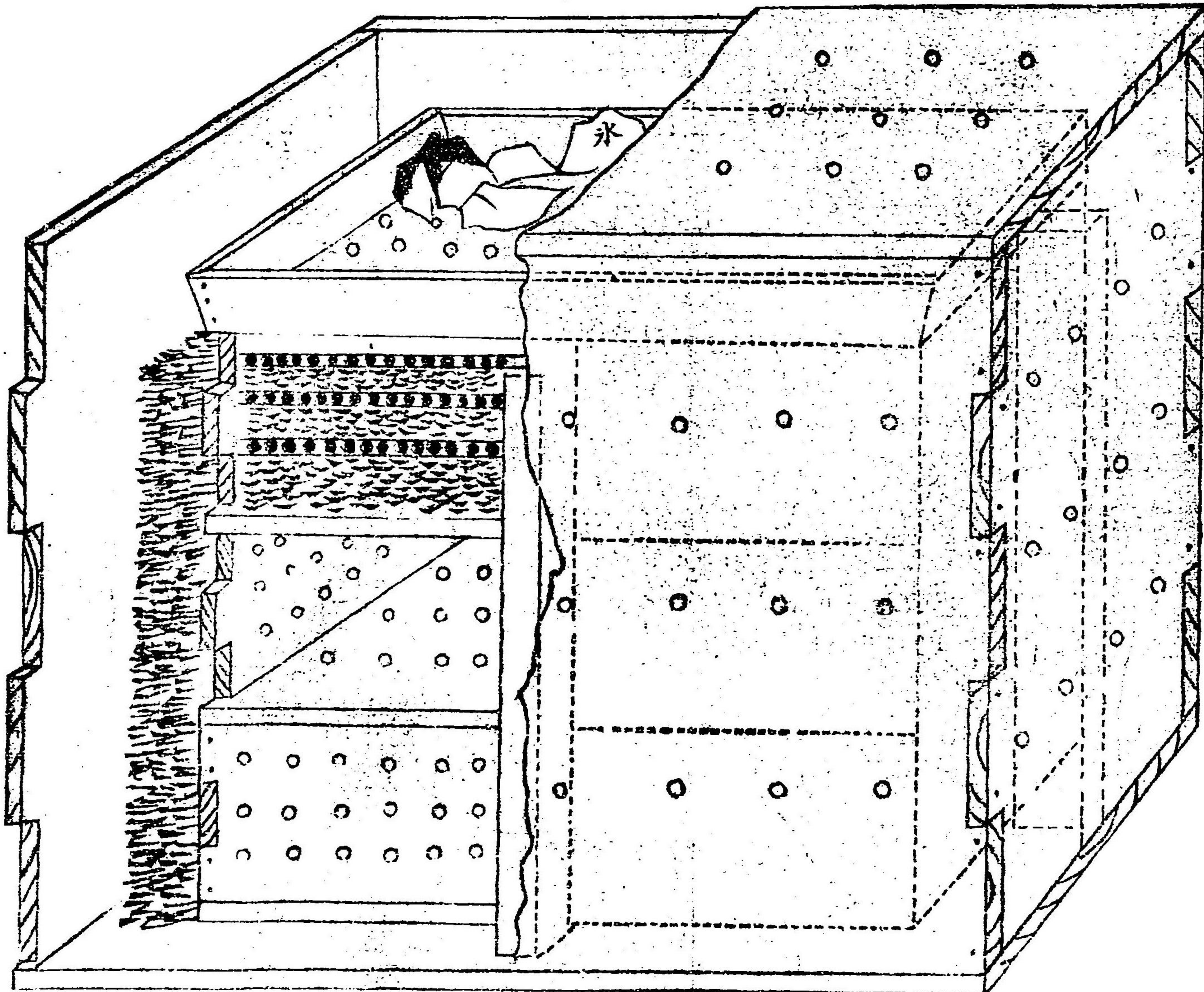


第二圖



孵化ノ水箱

第六圖



第一圖

接合セシ  
トキノ卵

第三圖

一  
現シタル卵  
點ノ眼睛

全

第四圖

兩  
點ノ眼  
睛ヲ現シタル卵

第五圖

腐敗氣ヲ帶  
ヒタル卵

第五圖

害蟲

運送ノ箱



附 鱒卵護送ノ心得

第一條 運送中卵子ヲ納レタル匣ノ烈ク搖撼セサルヲ要ス

第二條 運送中壹時間毎ニ必ス匣中氷ノ解ケルヤ否ヲ檢査シ若シ融

解シ盡ルキハ更ニ新氷ヲ置クヘシ

第三條 船中ニ搭載スルキハ厚ク注意シ其匣ヲ物ニ釣下ケ或ハ動搖

セサル所ニ置キ毎ニ氷氷ノ洩ケ卵子ヲ露スヲ肝要トス

第四條 孵化場ノ氷ニ移スキハ卵子ヲ包ミタル布ト共ニ氷ニ入レ卵

子ノ自ラ布ヲ離レタルヲ度トシ徐ニ布ヲ除去スヘシ

○魯國伯特堡駐劄本公使來書臘虎ノ説

嚮ニ本使在魯榷本公使ニ書ヲ贈リ附スルニ臘虎皮一枚ヲ

以テシ彼邦該獸捕獲ノ術製皮ノ精粗市價ノ低昂等ヲ諮詢

セシニ明治八年十二月公使該地製皮職工ヲシテ評價セシ

メタル答書ニ係ル

此皮ハ黒色ニシテ光澤アリ而テ綿毛モ密ナルヲ以テ頗ル美麗ナリ



ト雖モ脊筋ニ長毛無キヲ以テ大ニ價ヲ減ス故ニ其品位ヲ中等ニ置  
 サルヲ得ス若シ長毛ノアルノ兩脇ノ如クナレハ上等品ナリ  
 此皮ハ毛ヲ表ニシテ折リタルガ故ニ綿毛ニツニ分レテ間隙ヲ生ス  
 是レ大ニ忌ムベキヲニテ極上等品ハ斯ルヲナシ尤モ此皮ハ樟腦ヲ  
 塗リタルヲ以テ斯ル不長ノ品格ヲ成セリ  
 生皮ヲ日ニ曝乾シタル儘運輸スルヲ要ス樟腦ヲ用フルハ遂ニ綿  
 毛ニ害フ所云ヲ生スルヲ以テ惡シ東察加邊ヨリ當所へ輸致スル皮  
 類ハ何レモ樟腦其他ノ藥ヲ用フルヲナク只張テ日ニ曝シタル儘ナ  
 リ  
 此皮ハ冬衣ノ襟四枚ヲ取り得ヘシ  
 臘虎皮モ他ノ皮類ト同ク一二枚ニテハ價ヲ定メ難シ大小善惡併テ  
 數十枚ニテ始メテ其價ヲ定メ買取ルモノナリ其故ハ第一素人ノ眼  
 ニハ一樣ニ見ユル皮ニテモ商人ノ眼ニハ大ニ違ヘルヲアリ又一枚  
 ノ皮ニ就テモ貴キト賤キト毛ノ長短色ノ濃淡アルヲ以テ數枚ヲ併

買ヒ彼是レ見合セ襟又ハ帽子ニ造ルヲアレハナリ  
 余ハ製皮師ニシテ賣皮商ニアラサレハ此皮ノ價ヲ確言シ難シト雖  
 モ大概魯貨九拾ルノアル乃至百ルノアル迄ノ品ナル可シ大凡我六  
 春筋ニ長毛アレハ大ニ價ヲ増加スヘシ  
 此皮ハ其色黒キヲ以テ別ニ染ルヲ要セス茶褐色ノ皮ハ染テ黒色ト  
 ス其仕上ケ一枚ニ付三四ルノアルニ過ギス  
 此皮ハ滑シ方甚タ惡シ今一二回手ヲ入レ滑シ替サルヲ得ス  
 右ハ當地製皮師ノ申立ニヨル尙ホ賣皮商ヘモ一見セシメ其說ヲ後便  
 ニ報道スベシ既ニ前說ニ據テ知ルヘキハ臘虎皮綿毛上ニ長毛ノ生揃  
 ヒタルヲ上等品トシ色ハ第二ニ居ル者ト考ヘタル當所ニ於テ用ユル  
 上等品ハ大抵黒色ニ染タル者ニテ數年ヲ經褪色シタル時ハ染直ス  
 衣服ニ異ナラス近日上中下三等ノ品買入レ比較ノ爲メ輸送スベシ  
 革製造ハ格別難事ニアラス糠麥ト水トクウアストト云フ一種ノ甘キ  
 酒ノ甚々廉價ヲ和シテ塗ルヲ再三ニマテ皮ニ殘レル肉及ヒ筋脂等ヲ削



去ル迄ナリ然レハ素ヨリ實驗ヲ要ス拙者先頃ヨリ從者ニ此術ヲ學  
 ハセ居レリ上達ノ上ハ其法ヲ聞取リ巨細報道スベシ又タ染方ノ如キ  
 モ難事ニハ非スト雖モ當地ニ於テ之ヲ傳授スルニハ格外ノ禮金ヲ望  
 ミ(或ル家ニテハ一千「ル」アル「杯」ト云ヘリ)餘リ過分ナレハ先ツ見合セ  
 タリ然レハ拙者歸朝マテニハ必ス學ハセ置クベシ染方ノ法書ハ過日  
 一書籍ヲ得タレハ其内翻譯シテ送致スベシ  
 臘虎其外獸獵ノ義ニツキ先年當地大藏卿ノ命ニテ魯米商社支配地方  
 ナ二年間巡回セシ「コ」ストリチ「フ」氏ノ屈有之右ノ中ヨリ臘虎ニ關スル  
 一要件ヲ左ニ摘録ス

臘虎ハ毛皮職業中第一等ニ居ルモノナリ此皮ノ美麗ニシテ高價ナ  
 ルヲ以テ魯人外人ノ差別ナク爭テ此獸ヲ獵シ大利ヲ得ント欲シ年  
 ヲ其數ヲ減シ遂ニハ其族ヲ亡スニ至ルヘキ大ナル後害ヲ引出スニ  
 至レリ  
 臘虎ハ魯領「ク」リル「群」島「ア」レウ「ト」島「カ」ロシ「ン」峽及ヒ「ア」リヤ「ス」半島

ノ邊ニノミ住スル獸ニシテ全ク魯領ノ獸ト稱スモ可ナリ此獸曾テ  
 米國ノ「カ」ナダ「ニ」リ「ガ」リホル「ニ」ヤ「邊」マテノ海岸ニモ住シ「ア」レ「レ」現  
 今ハ北緯五拾五度ノ地ニハ住スル者アルヲ見ス魯領ノ外ニ於テ此  
 獸アルモノハ獨リ「擇」捉得「撫」兩島間ノ海峽ノミ  
 魯米商社モ他ノ獵民ト同ク一時ノ利ヲ貪リ獵業規則ヲ守ラサリ  
 シニ由リ其結果ハ諸處ニ現ハレ甲所ハ大ニ臘虎ノ數ヲ減シ乙所ハ  
 全ク其族ヲ滅スニ至レリ抑モ臘虎ハ知覺アル獸ナルヲ以テ其族ヲ  
 絶ツハ管ニ之ヲ殺盡スルニ限ラス屢、渠ヲ脅嚇スルキハ之カ爲メニ  
 全ク蹤ヲ其地ニ絶ツ者ナリ此獸甚ク脅迫セラル、キハ遠ク海  
 上ニ逃レ終ニ人跡無キ所ヲ索テ之ニ移ル  
 是ノ故ニ臘虎ヲ獵スルハ管ニ銃殺ヲ忌ムノミナラス弓矢ヲ用フル  
 モ連年同所ニテ獵スルヲ忌ム嘗テ米洲屬地ニアリシ僧「ウ」ア「ニ」ヤ「シ  
 「ン」ノ日記ニモ其事ヲ論シテ曰ク臘虎ヲ獵シテ之ヲ害セサラント欲  
 セハ決シテ連年一所ニ於テ獵ス可ラス少クモ一年ヲ隔テ、獵スベ



シ何トナレハ獵者ノ説ニ臘虎ハ一群中ニ二十分一ヲ獲ルハ極メテ  
稀ナルコトニテ百分ノ一ヲ獲ルハ甚タ稀ナラストノコトナリ然レハ臘  
虎ヲ獵スルハ常ニ其多數ヲ脅嚇シテ僅少ヲ獲ル者タル明ナリ然ル  
ニ之ヲ顧慮セズシテ獵リニ獵スルルハ各所皆彼ノ「アリウ井ロウ」島  
ノ如クナル遠カラサルベシ「アリウ井ロウ」島ニハ曾テ數千匹ノ臘虎  
住シタル處ナレトモ千八百十一年以來今日ニ至ル迄一匹モ見ルコトナ  
キニ至レリ  
近頃ハ臘虎ヲ獵スルニ決シテ銃ヲ用フルコトナク唯弓矢ノミヲ用ヒ  
且ツ小勢ニテ獵セズシテ必ス多勢ニテ一時ニ襲獵スルコトセリ是  
レ徒ニ之ヲ脅嚇シテ遠ク遁逃セシムルヲ防クガ爲ナリ若シ否ラス  
シテ小勢ニテ獵スルルハ常ニ其小數ヲ得ルノミニテ多數ハ海上ニ  
遁レ去ルニ至レハナリ海上三十里日本里程ヲ過レハ小船ニテハ追  
捕スル能ハス  
臘虎ハ支那ニ於テ大ニ珍重スルヲ以テ魯領ニテ獲タルモノ、一半

ハ「キヤクダ」ヨリ支那へ輸入シ其他ハ伯特堡府へ輸入スル趣諸書ニ  
見ヘタリ故ニ先回ノ見本皮ノ如キモ支那天津ニアル我領事館へ送  
ラレ彼地ノ品評斥賣ノ順序ヲ探ラレナハ又大ニ得ル所アルヘシ前  
次長毛云々モ畢竟ハ慣習ナルモ知ル可ラス  
魯米商社ニテ「クリル」人及ヒ「アレウ」ト「人」ヨリ臘虎皮買上ケ價值各  
差等アリ千八百五十二年ヨリ五十五年迄ハ毛皮一枚ニ付「クリル」人  
ニハ魯貨九「ル」アル「アレウ」ト「人」ニハ二十一「ル」アル宛代價ヲ渡  
セリト云フ其以後ノ事ハ魯政府ニ届書ナシ故ニ之ヲ知ルニ由ナシ  
「アレウ」ト「人」ハ臘虎ヲ捕ルニ最モ熟セリト云フ千八百六十年ノ調  
査ニ據レハ得撫嶋及ヒ新島ニ住スル「アレウ」ト「人」ノ數ハ并テ一  
百五十四人「ク」レナル「人」八十人蝦夷人八十一人アリシト云フ  
○又紫猫ノ如キハ千八百四十六年ニ千島ノ新島ニ於テ二十九匹  
捕ヘタル由此獸ハ臘虎ノ如ク居所移轉スル恐レ無キヲ以テ能ク注  
意シ其種類ヲ蕃息セシムルヲ肝要トス



醜丹擇捉二島及ヒ今度新領ノ「クリル」島ニモ黒狐ヲ産スル由黒狐ハ  
 一歳中數回兒ヲ産シ且島上ニ住スルヲ以テ他所ニ移ルイナシ故ニ  
 是レ又其種類ヲ蕃息セシムルヲ肝要タルヘシ黒狐ヲ殖スニハ黃狐  
 ナ減シテ其種ノ混交ヲ防クヲ要スト云フ

○榎本公使再書臘虎ノ説 明治九年三月八日

客年見本ノ爲メ送致セラレタル臘虎皮ニ付既ニ其概要ヲ報道シタリ  
 爾來當地獸皮商へ品評セシメタルニ左ノ答ヲ得タリ  
 見本ノ臘虎ハ價七十「ル」アルニ下ラス八十「ル」乃至八十五「ル」  
 一アル位迄ヲ相當ノ相場トス但シ臘虎皮ハ一枚ヲ見テ總体ノ價ヲ  
 定ムルト他ノ商賈ノ如キ能ハス何トナレハ臘虎皮ハ價ヲ定ルニ三  
 因アリ第一ハ白色ノ長毛並ニヨク生セルト否トニアリ第二ハ毛色ノ  
 黒キト否トニアリ第三ハ皮ノ大小ニアリ而テ其第一因ハ價ニ關ス  
 ル最大ナリ何トナレハ白色ノ長毛並ニ能ク揃ヒテ繁ク生シタルハ  
 人ノ最モ喜フ所ニシテ殊ニ得難ク且人工ヲ以テ能ク爲ス可カラサ

ルモノニ屬スレハナリ第二因ハ價ニ關スル甚タ大ナラヌ假令茶褐  
 色ナルモ其皮白色ノ長毛繁ク且ツ並能ク生セシメハ染テ黒カテ  
 ムルヲ得レハナリ第三因ハ唯其皮ノ大小ニヨリ生スル所ノ差ナレ  
 ハ價ニ關スル甚タ大ナルモノニ非ス通例「クリル」ノ臘虎ハ「アレウ」  
 トノ臘虎ヨリモ大ナリト云フ

今見本ノ皮ハ其色既ニ上等ニシテ毛ノ深サ亦上等ニ位セリ然ルニ  
 其價此ノ如ク賤キハ全ク白色長毛ノ並宜カラサルニ坐セリ此皮ノ  
 白色長毛ハ唯々兩傍ニノミアリテ脊筋ニハ絶テナシ脊筋ハ皮ノ最  
 モ貴キ所ナルニ其貴フヘキ根源タル白色長毛ヲ欠キタル故其價大  
 ニ下ラサルヲ得ス譬へハ此皮兩傍ニハ白色ナキモ脊筋ニ並能ク之  
 ソチ生セシメハ其價ハ既ニ幾層ヲ加フヘク又此皮兩傍白色長毛生  
 スル所ノ廣サ五六寸ニ過キス若シ之ヲシテ八寸以上ナラシメハ能  
 ク二三拾「ル」アルヲ増スニ至ルベシ若シ亦之ヲシテ全皮ニ並ニヨ  
 カラシメハ其價ハ二三倍又ハ四五倍ニ至ルベシ價ノ差違此ノ如シ



一枚ノ見本ニヨリテ同位敷ノ皮ノ價ハ定メ難クシ  
 臘虎皮賣買場ハ龍動ヲ最トス伯特堡ノ皮商モ多ク龍動ヨリ買得ス  
 然レモ偶米國ヨリ直チニ持來ルモノナキニハ非ス故ニ日本人若シ  
 臘虎皮ヲ歐洲ニ送ルノ意アラハ龍動ニ送ルモ伯特堡ニ送ルモ共ニ  
 可ナラシム但シ試ミノ爲メ其品百枚又ハ五十枚ヲ伯特堡ニ送ルモ決  
 シテ損失ノ虞ハナカルヘシ何トナレハ近來臘虎皮ヲ用フルハ漸ク  
 増加シ之ニ反シ其皮ノ出ルハ年々減スルヲ以テ價從テ騰貴スルノ  
 勢ナレハナリ若シ伯特堡ニ直チニ送り商賣品トスルニハ此見本皮  
 ノ如ク滑シタルハ良カラス是レ既ニ皮ノ性ヲ多少害シタルヲ以テ  
 其價亦多少下レハナリ一鉢臘虎ニ限ラス何程ノ獸皮ニテモ生皮ヲ  
 其儘能ク張り乾固シタルヲ以テ足レリトス餘術ヲ施スヘカラス之  
 レ年來「クリル」及ヒ「アソウ」ト等土人ノ爲ス所ノ方法ニシテ後日之  
 レヲ精製スルニ害ナク頗ル宜キヲ得タルモノナリ搥ヲ用フルハ皮  
 ニ害アリ樟腦ヲ用フルモ亦不可ナリ只前文ノ如ク天日ニ乾シタル

モノヲ回送ノ間ニ濕氣ヲ防ク「肝要」タルヲ以テ最初極メテ能ク乾  
 曝スヘキハ論ヲ俟タス又之ヲ箱ニスルモ先ツ「ブリツキ」箱ニ詰メ更  
 ニ木製ノ上箱ニ入ル、カ又ハ木箱ヲ更ニ海豹ニテ包ム「支那茶箱  
 ノ如ク」スヘシ

接スルニ本文記スカ如キ見本ヲ以テ預メ價位ヲ定ムル「能ハス」既ニ  
 見本皮ノ如キハ其白色長毛ノ普カラサル一因ニヨリ如此賤價ヲナス  
 ナリ以テ見レハ試ミトシテ送ル「モ亦甚ク爲シ難キ」ノ舉ニ屬ス然リト  
 雖モ白色長毛ノ如キ或ハ日本ニ於テハ左マテ人ノ注意スル處ニ非ス  
 シテ伯特堡ニ於テハ之ヲ以テ價ノ最大ナルモノトスルカ如キ差異ア  
 ルヲ以テ能ク之レヲ鑒定區別シ日本ニテハ尋常ノ價ニシテ魯西亞ニ  
 於テハ非常ノ高價ナルカ如キ者ノミヲ送り試ミハ決シテ損失ノ恐レ  
 ナク利益ノ望ミアルベシ然レモ魯西亞ハ船路不便ニシテ費用亦多カ  
 ラサルヲ得ザルヲ以テ假令價位ニ於テ若干ヲ利スルガ如キモ其實ハ  
 之レニ反スル「トナシ」トモ云ヒ難シ却テ上海天津ハ我商買ノ往來スル



モノアリ我領事ノ駐留スル者アリ其實況ヲ探知スルニ難カラザルベシ前文述ルカ如キ鑒定區別ヲ經テ後當地ニ送致アラハ或ハ意外ノ利益アルモ知ル可ラス臘虎皮ノ外狐狸其他ノ獸皮モ皆捌口澤山アルヲ以テ先ツ北海道ニ産スル狐其外ノ獸皮ヲ當地其他各國へ見本トシテ送致アルト亦肝要タル可シト思考セリ狐皮杯ニモ餘程高價ノ品アリト云フ

○チャールレス、ランマン氏臘虎ノ説覆本公使報道ニ係ル

毛皮ヲ獲ン爲メ最モ貴重セル此動物ハ重ニ北大平洋中ニ於テ之ヲ見ル此獸タル第二ウヰテユスヘーリソク行ノ節附屬ノ水夫始メテ此獸ヲ捕獲セリ即チ千七百四十年代始メテ貿易品ノ一トナレリ此獸ハ亞國沿海嘉邦ニ於ル如ク南方及ヒ亞細亞嶋嶼千島ノ如キ遙カ南方ニ住スルヲ見ル

此獸以前ハ東察加ニ群集セシテ以テ魯人之レチ支那ノ茶絹ト交換セ

リ

目今東察加ニテ捕獲スルモノハ些々ノミ然レモ「アラスカ」及ヒ魯國沿海諸島ノ間ニテ年々捕獲スル員數五六千ナリ

臘虎ト海狗ハ兩ナカラ目今最モ貴重ノ獸ニシテ其毛皮ヲ得ンガ爲メ獵殺ス然レモ其數ニ比スレハ贏利多キカ故ニ海狗ヨリ臘虎ノ價ハ貴シ

最モ少キ計算ニテ考定スルニ七十六年間「アラスカ」ノ互市ニ出セル臘虎皮ノ總數二十六万二千五百四十六張ニシテ海狗皮ハ三百八十三万三千四百貳張ナリキ

充分成長ノ臘虎ハ尾ト共ニ長サ凡ソ五尺許アリ尾ノ長サ壹尺皮ト別ニシテ賣却セリ

此毛皮ハ厚ク長毛鮮光アリテ或ハ黒色ナルアリ又濃胡桃色ニシテ尖毛白色ナルアリ

此物品ノ互市場ハ從來歐洲ナリシガ近頃亞商夥ク之ヲ獲テ常ニ歐洲



北方諸國へ輸出ス  
 以前ハ此良品壹張三百弗乃至五百弗ナリシカ一千八百七十年來其  
 張ノ價八十弗乃至百弗ニ下落セリ  
 臘虎ノ性ハ博物家モ未タ詳ニスルヲ得ス然レモ怒濤ヲ凌キ食料ヲ求  
 テ沿海或ハ島嶼ノ邊ニ見ルヲ常トス又時トシテハ遼遠ノ海中ニ居ル  
 ニアリ  
 臘虎ハ一季ニ只一頭ヲ産ス此季節ニハ容易ニ捕獲スベシ罕ニハ之ヲ  
 銃殺スド雖モ槍或ハ銃ヲ以テ獵殺スルヲ通例トス  
 「アラスカ」人民ノ臘虎ヲ捕獲スル左ノ法ヲ以テス  
 天氣晴朗海面靜穩ナルトキ人民連合シテ二三日ノ食料ヲ具ヘ「キアツ  
 グス」ト唱フル船ニ乗シ場所ヲトシテ進行ス  
 其處ニ至レハ靜ニ橈ヲ盪シ諸船ヲ一線ニ連テ臘虎ヲ見ルモノアレンハ  
 橈ヲ上テ暗號ヲナシ直チニ銃或ハ槍ヲ投シ速ニ諸船ヲ纏テ環列シ之  
 ヲ捕獲ス

獸皮ハ之ヲ發見シテ銛或ハ槍ヲ投セシ者ノ所得トス  
 臘虎ノ毛皮ヲ貯藏スルニハ殊ニ其賦ヲ去ルニ大ニ注意スヘシ若シ蠶  
 ク其賦ヲ除クニ非レハ蛾ヲ生シ終ニ用フヘカラサルニ至ル  
 ○養蠶ノ顛末明治四年ヨリ全一  
 明治四年蠶室ヲ石狩國札幌郡丘珠村ニ築キ陸前磐城兩國ヨリ黃白蠶  
 種二十枚ヲ購ヒ天然桑葉ヲ以テ養ヒ繭拾石ヲ得ル是歲磐城陸前等ヨ  
 リ移住ノ人民其郷里ヨリ携帶スル所ノ蠶種ヲ養ヘリ  
 五年丘珠村蠶室ニ於テ蠶種紙廿四枚ヲ掃下シ天然育生繭九石ヲ得  
 リ  
 六年石狩國札幌郡平岸村移住民其舊里ヨリ携來リシ白繭種二十八枚  
 ヲ購ヒ官製黃種六枚ヲ合セテ丘珠村蠶室ニ於テ試養ス生繭四石五斗  
 ヲ収ム  
 七年丘珠ノ蠶事ヲ廢シ札幌創成通り舊本廳ヲ以テ假蠶室トシ官製ノ  
 蠶種十五枚ヲ掃下シ生繭四石六斗ヲ得アリ又官製ノ卵紙五十六枚ヲ



管下人民へ下付シ生繭買上ノ法ヲ設ケ繭三十八石貳斗壹升壹合貳勺  
 四才ヲ買得セリ是歲東京官園ニ木製六人繰ノ車ヲ造リ富岡工女三名  
 ヲ雇ヒ曩ニ買上ケタル生繭ヲ製治ス  
 八年本廳濱益通りニ上野地方ノ結構ニ模擬シ蠶室ヲ築キ熊谷縣下平  
 民田島定邦ヲ雇ヒ各郡及ヒ屯田兵家族男女五十名ヲ招募シ蠶種紙二  
 十九枚ヲ試育セシニ天然育ナルガ故ニ十分ノ結果ヲ見ス是歲人民ヨ  
 リ買上ケシ生繭ハ百六石貳升八合貳勺先是兩龍通りニ蒸繭製糸ノ兩  
 室ヲ築キ東京ヨリ製糸工女十貳名職工四名ヲ招募シ八月二十八日ヨ  
 リ繰車運轉ヲ試シニ構造十分ナラス遂ニ生繭九十二石五斗ヲ東京ニ  
 輸シ工女モ歸京セシメ官園ニテ絲ヲ繰セシム  
 九年札幌郡篠津太ニ蠶室ヲ築キ濱益通り蠶室ト同ク民事局勸業課ニ  
 管理セシメ蠶織ノ兩業ヲ試験シ河村權大主典ヲシテ蠶事ヲ擔當セシ  
 ム濱益通りノ蠶室ハ天然育室ノ構造ナレハ更ニ温冷二育ノ法ニ從ヒ  
 室内ヲ分ツテ八區トシ盛熱、正熱、清温、清冷ノ四育ニ區分セシニ温育ノ

風土ニ適スルノ實驗ヲ得タリ篠津太ニ於テハ二十枚餘ノ蠶種ヲ掃下  
 シ兩室ノ成繭三十石零八斗零八合五勺六才人民ヨリ買上タル繭八拾  
 七石九斗四升貳合アリ  
 是歲五月新ニ製糸室貯繭室蒸繭室ヲ築キ繰車ハ鐵製滾轉ノ二十四人  
 繰ニテ蒸繭ハ伊國新製滾室ノ法ニ據リ製糸精密ノ試験ヲナシ大ニ人  
 民ヲ誘導ス  
 札幌本廳ノ西北二十一万坪ノ地ヲ桑園トシ酒田縣ノ士族ヲ募リ開墾  
 ニ從事セシム  
 十年濱益通り蠶室ニ於テ盛熱、燥熱、蒸温、清温、清冷、火助清冷ノ六育法ヲ  
 以テ蠶種拾七枚ヲ飼育シ繭拾貳石九斗三升六合五勺ヲ収ム篠津太蠶  
 室ハ清温法ヲ以テ蠶種二十一枚餘ニテ繭十一石八斗七升零八勺ヲ収  
 ム是歲初メテ野蠶ノ試育及ヒ夏蠶秋蠶ノ飼養ヲモ試ム又屯田局モ蠶  
 室四宇ヲ造リ其二室ニテ蠶種二十三枚ヲ掃下ス本年人民ヨリ繭九十  
 五石八斗二升一合五勺四才ヲ買上ケタリ○製糸場へ織室染室ヲ築キ



伊國然糸器械ヲ模造之ヲ織室ノ樓上ニ設ケ然糸ノ業ニ着手ス幸河村  
 係習○濱益通り蠶室ノ屬地ニ培桑試驗圃ヲ設ケ内外諸種ノ桑樹各  
 百本ヲ培養シ繁殖ノ適否ヲ試ム  
 十一年濱益通り蠶室第一回養蠶ハ種紙二枚二分五厘ヲ掃下シ繭九斗  
 四升七合五勺ヲ収メ第二回ハ盛熱温度昇降燥熱蒸温清温清冷火助清  
 冷寒冷ノ八育法ニ分テ蠶種十四枚ヲ掃下セシニ盛熱燥熱蒸温温度昇  
 降ノ四育ハ豐熟セリ清温育中ノ佛國種ヨリ一種ノ傳染病ヲ發シ清冷  
 火助清冷寒冷ノ三育ニ及ヒ全室ノ収繭僅ニ二石五斗四升四合零八才  
 ヲ得タリ第三回第四回ハ氷室貯藏ノ蠶種ヲ掃下シ三齡ニ至テ逐次斃  
 死ス第五回ハ夏蠶ノ再生種ヲ掃下シ繭壹斗九升四合貳勺ヲ収ム○篠  
 津天蠶室ハ正熟育法ヲ以テ蠶種拾八枚五分ヲ掃下シ繭拾七石三斗零  
 四合五勺壹才ヲ得ル○本年ハ屯田局四室モ各蠶種二十枚ヲ掃下シ人  
 民ノ蠶事モ大ニ進歩シ繭百九拾八石八斗九升九合九勺九才ヲ買上ケ  
 タリ○是歲手稻其他札幌近村ノ移民ニ桑園開墾費ヲ貸與ス○野蠶試

育ハ池庭林ノ三飼法ヲ試ミシニ池林大ニ適ス殊ニ清國産ノ柞繭樽繭  
 ノ二種ヲ樞樑栗ヲ以テ飼養ス亦々適應豐熟ス○濱益通り蠶室屬地ニ  
 織材染料ノ植物試驗圃ヲ設ケ米國ノ草綿亞麻及紅花大麻紫根等ヲ栽  
 植ス

○玉蜀黍ノ効用 明治十一年十月十五日

玉蜀黍ハ食料トシ或ハ酒ニ釀シ莖ハ砂糖又ハ蜜ニ製シ其絞糟及ヒ皮  
 葉ハ馬ノ飼料ニ用ヒ一モ捨ツヘキモノナシ而ルニ從來莖ハ秣ニ用フ  
 ルノミニテ多クハ不用物ニ屬シタリ此物多量ノ糖質ヲ含有シ之ヲ  
 砂糖蜜ニ製シ食用ニ供スルハ其味黒砂糖ニ劣ラス且製法モ極メテ  
 簡易ナリ製蜜一升重サ六百四十目トシ左ノ概算ニ據レハ製造費六錢  
 五厘三毛ニシテ一斤ヲ得之ヲ黒砂糖一斤八九錢ノ價ニ比スルニ頗ル  
 廉ナリ尤モ他人ヲ雇ハス農暇ニ各自之ヲ製セハ僅カニ炭酸曹達ト工  
 費薪料ノミ其利益夥ナシトセス因テ其製法ヲ掲ケ普ク管下ニ報告ス

砂糖蜜製法



秋季霜ノ未タ下ラザル(成丈ケ莖ノ若ニ及ノテ莖ヲ苴取リ直ニ皮葉ヲ去リ一寸餘ニ剉截シ曰ニテ搗キ碎キ苴取テ時間ヲ過セハ液汁少ナシナリ)經レハ酸味ヲ生ス故(絞器ニテ強ク絞ルトキハ三千本ニ付七斗五升ニ登時ニ烹煎スヘシ)許ノ液汁ヲ得ヘシ之ヲ大小適宜ノ鐵鍋ニ移シ文火ニテ焚キ沸湯スルニ至リ液汁一斗ニ炭酸曹達(八分以テ)鍋中ニ投シ始終油斷ナシ攪拌シテ(炭酸曹達ヲ加フルハ)右七斗五升ノ汁ヲ一斗二升二合五勺位ニ煎シ詰ルヲ度トス然レモ其汁ノ濃淡ハ人々ノ好ニ任スヘシ

製造入費

- 一金貳拾五錢 男一人ノ賃
- 玉蜀黍莖三千本苴取ル手間
- 一金四拾五錢 女三人ノ賃
- 莖ノ節皮並葉ヲ剉取ル手間
- 一金七拾五錢 男三人
- 莖ヲ押切ニテ刻ム手間

一金七拾五錢 男三人

刻ミタル莖ヲ搗碎ク手間

一金六拾貳錢五厘 男二人半

搗碎タル莖ヲ絞リ煮ル手間

一金貳拾五錢 薪

一金拾貳錢五厘 炭酸曹達

合金三圓貳拾錢

○鱈魚酸漬製法

明治九年八月鱈魚酸漬ヲ香港ヘ送致セシニ大ニ賞鑒セラレ又多ク注文アリシヲ中川嘉兵衛ヨリ聞ケリ今其要ヲ録ス

第一 鱈魚ノ鮮肉ヲ一寸或ハ二寸器物ノ大小ニ應シ適宜ニ剉切シ血液及ヒ其他ノ部分ヲ淨水ニテ洗滌シ西洋食鹽適宜ヲ水ニ溶解シ肉ヲ其中ニ蘸ス(鹽水濃厚ナレハ僅カ半時間ニシテ足レリ)稀薄ナルキハ一日間ヲ要ス(鹽分全ク肉中ニ滲透スルヲ候ヒ)筧上ヘ揚ケ水分ヲ昇散セ



第二 鐵鍋へ淨水ト白酸ヲ等分ニ混和シ「ローレル」ノ乾葉ト粒胡椒トヲ加ヘ微火ニ上セ養ルヲ暫時(水、白酸五升宛ナレハ粒胡椒二合「ローレル」乾葉一斤位ノ割合ナリ)ニシテ攪水ニ蒸シタル鮮肉ヲ入レ又養ルヲ暫時間ニシテ(長ク養ルキハ香氣ヲ失ヒ肉壞ル、ノ恐アリ)肉ヲ磁器或ハ硝子器或ハ鉄葉筒ニ裝シ温ニ乘シ精製ノ阿膠ヲ沸湯水ニ溶解シタルモノヲ以テ密封ス(凡貳天入ノ器ナレハ阿膠目方五匁程ヲ要ス)

用法

冷食 但シ洋製ノ「ソー」カ又ハ山葵醬油ヲ注キ食フモ可ナリ

○ 鮓魚各種製法 明治十年六月十六日

從來鮓魚漁獲ノ過半ハ肥料ニ輸出セシヲ以テ未ダ充分ノ價格ヲ得ス今若シ其製法ヲ改正シ鹽鮓及ヒ樽詰鹽漬並ニ熏製等ニ作ラハ漸次外國輸出物トモナル可シ故ニ先ツ試ニ清國北地へ輸送シ以テ將來ノ目途ヲ確定セント欲ス本年其時氣ヲ測リ左ノ各種ヲ試製ス

鮮鹽水漬製法

魚ノ脊ヲ割キ臟腑及ヒ血液ヲ洗滌シ充分清淨ニナリタルモノヲ鹽漬ニシ七合位ノ割也凡上ニ適宜ノ壓石ヲ置ク一凡一周間鹽水其上ニ滿溢スルヲ見ル依テ之ヲ別器ニ移シ魚ヲ桶ニ裝シ壹桶二十尾密封ス横ニ小孔ヲ穿チ別器ニ移シ置キタル鹽水ヲ注入シ桶中空隙ナキニ至リ其孔ニ栓ス

鹽鮓製法

魚ヲ集メ適宜ニ鹽ヲ和シ魚ト鹽ト混和セシムル爲メ熊手狀ノ器ニテ攪拌シ之ヲ函或ハ桶ノ底ニ數孔ヲ穿チタルモノニ納レ上ニ適宜ノ壓石ヲ上セ粘液其他ノ部分ヲ漏出セシメタル後チ大氣流通ノ處へ散布乾燥シ更ニ適宜ノ鹽ヲ糝シ函中ニ裝ス

○ 漁網製造ノ報文 明治十一年二月九日

本廳管下各郡人民授産ノ爲メ明治八年中元永澤縣下ヨリ漁網製造人ヲ雇ヒ有志ノ者ヲ募リ昨九年初メテ當地出産ノ麻苧ヲ以テ鮓鮮ヲ捕

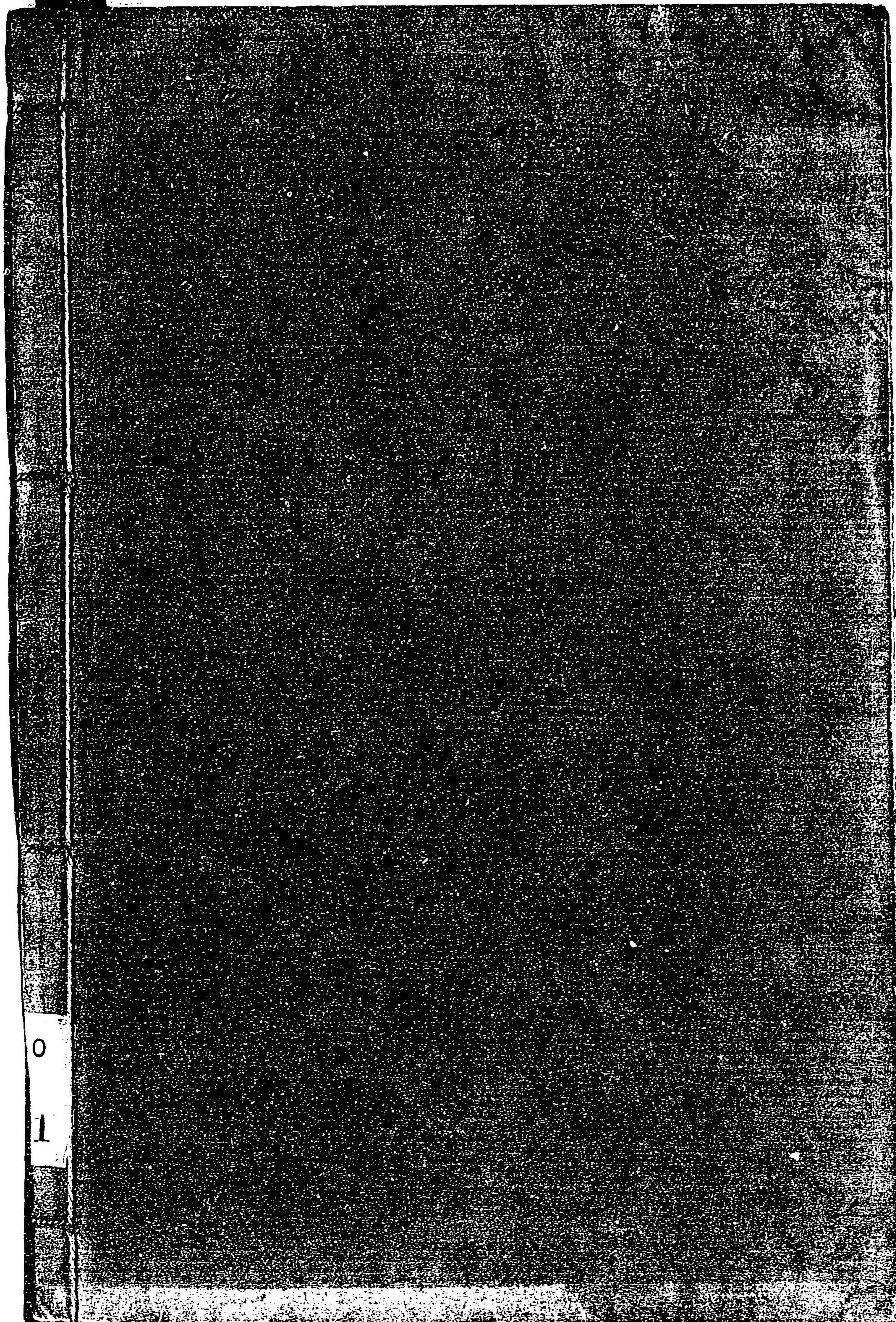


フルノ漁網ヲ製造セシメ之ヲ小樽其他ノ漁民へ拂下ケシニ本年ハ鮮  
 網一万間餘及ヒ他ノ漁網拂下ケテ請フ者甚々多ク當今該業ニ從事ス  
 ル男女百五拾名ノ多キニ至レリ然ルニ職工場屋狹隘ニシテ盛大ニ就  
 業スルヲ得ス既ニ昨年モ各郡ヨリ後レテ拂下ヲ出願スル者ハ其需用  
 ニ應スル能ハサルノ景況ナリ漁網ハ當道必用品ナルカ故ニ創業ヨリ  
 月々幾分ノ益アリ速ニ工場ノ家屋ヲ増築シ大ニ該業ヲ勧誘シテ人民  
 需用ノ期ヲ過ラサラシメハ漁戶ハ良網ヲ得テ益漁業ヲ更張シ製網ノ  
 窮民ハ授産ノ實効ヲ奏シ逐年各民富庶ヲ期ス可キナリ因テ目今ノ實  
 況ヲ報シ併セテ工場増築ノ許可アラソシテ請フ

明治十二年十二月十九日出版 屆

定價金拾貳錢五厘





0  
1